

組織の分断と弱体化を狙った、 本人希望無視の強制異動の連発！

5月13日付の異動の事前通知が多くの職場で出されています。大半は輸送サービス労組に所属する組合員である上、家族状況や生活設計を考慮して描いたキャリアプランが無視され、根拠を問うても納得いく理由は示されない事から、12名もの組合員から「簡易苦情申立」が出される異常事態となっています。自己申告書に基づく個人面談で伝えた事が一切反映されていない発令に対し、申告を行った12名以外にも今回の発令を不服に思っている組合員は多くいます。

人事権は会社にありますし私たちは異動全般そのものを否定していませんが、本人が描いたキャリアプランを一切否定する異動が会社の謳う「社員・家族の幸福実現」に繋がるとは到底思えません。

輸送サービス労組八王子地本は2020年度から始まった「新たなジョブローテーション施策」によって本人希望を無視する形で異動を余儀なくされた組合員を中心に「ジョブローテーションプロジェクト」を結成し、「鉄道業にとって相応しい制度はどうあるべきか」議論を重ね、提言をまとめています。

あらためて2021年10月に発行した職場討議資料を読み合わせ、安全で働きがいの持てる職場を全ての仲間の結集で創り出そう！

はじめに
 2020年4月から始まった「新たなジョブローテーション施策」により、社員的生活設計や将来設計を無視した非人道的な強制異動が繰り返されています。「多様な経験に基づく成長」や「生活設計」といった本人希望に沿った異動はわずかであり、大半は本人希望のない中やあきらめ感の強い中で異動を強いられているのが実態です。「いつ・どこで声がかかるか」という不安の中業をせざるを得ない状況になっています。

会社は社員を「新たなジョブローテーション施策」から公募制異動やマイプロや委員会等のインフォーマル活動で「本人の成長」という言葉で「何でも屋」をつくることに、我々輸送サービス労組の分断・排除が目指され、会社施策をスピーディーに押し通すための従順な社員を創り、いかに効率的に利益をあげていくのみに目が構想されています。鉄道事は「安全性・専門性・人間性」が高い業種であり、コロナ禍で明らかになったように社会を維持する公共交通機関として、そこで働く私たち労働者はエッセンシャルワーカーとして大きな使命を持っています。そして、安全を担うはずの社員が不安を持ちながら業務にあたるということが事故につながる事は歴史が証明しています。

2021年2月、八王子地本ジョブローテーションプロジェクト(JRP)を立ち上げ、毎月議論を重ねてきました。議論経過から会場の背後要因にある「職場環境の問題」、「教育・技術継承・人材育成の問題」から「新たなジョブローテーション施策」で表れた問題点を抽出し、「新たなジョブローテーション施策」の問題解決に向け安全性・専門性・人間性の観点から、鉄道業に相応しい制度を実現するための提言をつくりだしてきました。

「八王子地本 JRP」開催状況

第1回	2月11日	八王子労政会第6会議室
第2回	3月2、5日(分断期)	八王子労政会第7会議室
第3回	4月14、16日(分断期)	八王子労政会第5会議室
第4回	5月19日	武蔵野会館
第5回	6月25日	八王子労政会第5会議室
第6回	7月25日	八王子生活学習センター第7学習室
第7回	8月24日	八王子労政会第5会議室
第8回	9月30日	八王子労政会第6会議室

差別のない健全な職場と、安全で質の高い輸送サービスの実現提供に向け
 私たちはこれからも「おかしい事はおかしい」と声をあげ続けます